加古川シネマクラブニュース Vol.33　2007.11.05 号

11 月例会「トンマッコルへようこそ」

12 月に「紙屋悦子の青春」上映会

例会のお知らせ

■名称／第 33 回例会　「トンマッコルへようこそ」

■日時／2007 年 11 月 22 日(木)①PM1:30～、②PM4:00～、③PM6:30～(長時間のため、開始時間に注意ください)

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000 円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／トンマッコルへようこそ

■監督／パク・クァンヒョン

■音楽／久石譲

■出演／シン・ハギュン、チョン・ジェヨン、カン・ヘジョン、イム・ハリョン、ソ・ジェギョン、スティーヴ・テシュラー、リュ・ドックァン、チョン・ジェジン、チョ・ドッキョン、クォン・オミン

■データ／2005 年、韓国、カラー、2 時間 12 分、35㎜、

■ジャンル／ドラマ、ヒューマン、戦争、コメディ

■解説

1950年代の朝鮮戦争が続く中、山奥に、戦争も武器も知らない平和な村“トンマッコル”があった。

そんな村へまるで導かれるように、アメリカ軍パイロットのスミス、韓国軍の2人、それに敵対する人民軍の3人がやってきた。銃や手榴弾を見たことがない呑気な村人たちとともに、繰り広げられるファンタジー戦争ドラマ。

監督は、新鋭パク・クァンヒョン。音楽は、日本映画界が誇る久石譲。キャストには「JSA」のシン・ハギュン、「シルミド／SILMIDO」のチョン・ジェヨン、「オールド・ボーイ」のカン・ヘジョンなど。

「紙屋悦子の青春」上映会

12月 12 日(水)に文化庁支援上映会を行うことになりました。

■名称／「紙屋悦子の青春」

■日時／2007 年 12 月 12 日(水)

上映会は、①AM10:30～、②PM1:30～

■場所／■場所／加古川総合文化センター大会議室

■料金／加古川シネマクラブ会員 800 円、一般 1,200 円。(非会員はチラシ割引などをご利用ください)

【作品データ】

■タイトル／紙屋悦子の青春

■監督／黒木和雄

■出演／原田知世、永瀬正敏、松岡俊介、本上まなみ

■データ／2006 年、日本、カラー、1 時間 51 分、16㎜

■ジャンル／ドラマ、戦争、ヒューマン

■解説

数多くの映画賞を受賞し、世代を超え感動の渦を巻き起こした「父と暮せば」の黒木和雄監督の遺作。戦争の記憶の風化していく中、最後に「TOMORROW　明日」、「美しい夏 キリシマ」、「父と暮せば」の戦争レクイエム三部作を残した監督は、2006 年 4 月 12 日に亡くなり、この上映会は、追悼の気持ちをもって鑑

賞いただきたい。

原作は、岸田國士戯曲賞・読売文学賞などを受賞した松田正隆氏の傑作戯曲。

特攻基地のあった鹿児島県出水市を舞台に、昭和20年の庶民生活を、松田氏自身の母上をモデルとして描いた戯曲は、1992年の発表以来、日本全国で上演された。

敗戦を間近に控えた鹿児島の田舎町、春の咲き誇る桜の樹の下で海軍航空隊に所属する二人の若者は美しく純朴な娘へ恋をし、娘も又、初めてのときめきに胸を焦がす。それは何時の時代にも存在する輝かしき青春の1ページ。しかし、燃え尽きつつある戦争の業火は、特攻隊に志願した若い命を呑み込み、生き残った者の心にも生涯消えない傷跡を刻み込んでいく…

加古川のニッケ社宅で映画ロケ

9月を中心に延8日間、加古川町本町のニッケ社宅で、野坂昭如原作の「火垂るの墓」のロケが行われました。ここは、明治・大正期の洋館や和風建築の住宅、板やれんが塀が続く路地が残る映画村のようなところです。残念なところは、老朽化による取り壊しが続いていることです。

会員の中には、特別にすぐ近くで見学できた人もいるので、報告いただきました。

ロケの合間に、松坂慶子が鶴林寺に参拝に来たという目撃情報もありました。

【映画「火垂るの墓」ロケ見学】

映画のロケを見るのは初めてで、またアニメの「火垂るの墓」は好きな作品なのでその実写にも興味があり、ドキドキわくわくしながら参加しました。

撮影現場に着くと、それらしき人々と器材が。たくさんのスタッフ、大きいライトなどもあり、やはり物々しい雰囲気でした。

まず撮影に使った部屋に案内していただき、掃除などの準備や設定された時代と矛盾がないように見せる工夫など苦労話を聞かせてもらい、映画を作るのは地道で大変だと思いました。また、室内の撮影なのに天気が安定するのを何十分も待って細かく照明を調整したり、思った以上の繊細さに驚きました。

そして、初めて映画俳優さん達の演技を生で見ることもできました。松坂慶子さんは大柄でやはり華やかな雰囲気を放っている人でした（もんぺ姿にも拘らず）。方言指導の人が傍にいて一緒に繰り返しセリフの練習をしている姿が印象に残っています。

演技が始まると周りの者も音を立てられないので緊張しました。テストでも息をする事も憚られるほど。本番では見学者は出て行かなければいけないかなと思っていたらそのまま見ることが出来たので嬉しかったです。でも、何の注意もされず知らないうちに本番に入ったので誰か声を出したり、携帯電話が鳴ったりしたらどうするんだろう？と要らぬ心配をしたりしていました。

スタッフの皆さんは私達が見ていても邪魔にする事無く、逆に親切に声を掛けて下さったりしてとても有り難かったです。

出来上がった映画のスクリーンには何人かの俳優さんの姿しか見えませんが、その奥にある何倍ものスタッフの存在を今回ロケを見学して実感しました。

今回見学したシーンがどのように仕上がるのか、また若い監督が戦争をどうしっかりと描くか興味深い所です。

映画を作る事は大変な事だけど、何人ものしかも世界中の人に感動や影響を与えたり出来る。いつか自分でも映画を撮れたら素敵だなぁなんて思いを巡らせています。（糟谷尚子）

前回例会の報告

9月19日の例会では、「**恋するトマト**」を鑑賞しました。参加会員150人。

新入会員も少しずつ増え、安定した運営状態になってきています。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。また、運営委員会や忘年会にもご参加ください。詳しくは、ホームページで掲示します。また、電話でお問い合わせください。

加古川シネマクラブ　〒675-0101
加古川市平岡町新在家752-46 B-313 山本方
TEL 090-9283-0435　FAX 078-935-8528
E-MAIL cinemaclub@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/cinemaclub

会員数214人(9月19日現在)